

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成21年10月13日

【評価実施概要】

事業所番号	1570201077
法人名	社会福祉法人 信濃川令終会
事業所名	グループホームこうなん
所在地	新潟県長岡市渡沢町字早田53番地 (電話) 0258 - 23 - 7611
評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 21年 8月 27日

【情報提供票より】(21年 6月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 6月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18人
職員数	14人 常勤 14人、非常勤 0人、常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 2階 建ての 1階 ~ 2階 部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有(円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食 210 円	昼食 350 円	
	夕食 340 円	おやつ 円	
	または1日あたり		円

(4) 利用者の概要 (21年 6月現在)

利用者人数	18名	男性 0名	女性 18名
要介護1	1名	要介護2	6名
要介護3	7名	要介護4	4名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 87歳	最低 81歳	最高 98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	厚生連 長岡中央総合病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームこうなん」は、自然豊かな長岡市の郊外に位置している。田園風景の中を散歩しながら、日常的に近所の人たちと自然に挨拶を交わし合っている。同一敷地内には同法人が運営する特別養護老人ホームやケアハウスなどがあり、協力体制が取られ、安心して生活できる基盤が整っている。また、中越地震の際に避難所として機能したことにより地域との関係も深まっており、自主防災会との連絡体制や防災訓練への参加など連携が図られている。
ホーム建物は各ユニットごとに独立した木造2階建てで、それぞれ個性のある運営がされている。管理者、職員は常に利用者主体のケアを大切に考え、一人ひとりのペースに合わせたケアを実践している。センター方式のアセスメントシートを活用して利用者の思い、発した言葉や家族との会話などの情報を収集し、利用者の目線に立った介護計画を作成している。また、利用者が重度化し介護量が増えていく中で、本人の尊厳を守りグループホームとして行えるケアの在り方の検討を続けている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での課題を検討し、改善への取り組みを行った。「マニュアルの作成」では、新人職員の研修を念頭に置いて、業務見直しを行いマニュアルを作成した。職員間の役割やサービス内容の共有化が図らるサービス水準の確保に取り組んでいる。「急変や事故発生時の備え」については、夜間の緊急時の対応をマニュアルに従って取り組んでいる。実際に必要な手当て、適切な対応がとれるように急変時等の時間帯、場面を想定した訓練を繰り返し行うことを期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員ごとに項目の分担を決めて自己評価表の記入を行った。管理者はそれをホーム全体の自己評価としてまとめ、職員に報告し、意見交換をして改善に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されている。利用者や家族代表、町内会長、法人の特別養護老人ホームの施設長や副施設長により構成され、活発な意見交換が行なわれている。前回から当該月までのグループホームの状況や今後の活動予定など話題提供しながら、話しやすい雰囲気があり有意義な会となっている。年一回は、利用者と昼食を共にして現状の理解を得る機会となっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>職員は、家族の面会時の時間を大切に考えており、利用者一人ひとりの暮らしぶりや心身の状況などを報告している。家族が話しやすい雰囲気作りに努め、意見・要望を引き出すように声をかけている。寄せられた意見・要望はミーティングで話し合い、サービスの改善に結び付けている。職員が日々の中で家族とやり取りした内容は小さなことも連絡帳に記載し、職員間で共有している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩等の際には地域の方たちと自然に挨拶をし合うなど、日常的な交流が持たれている。地域の方から野菜や山菜のおすそ分けを頂くこともあり、その際は献立に加えるなどして楽しんでいる。近隣の小・中学校や幼稚園との交流や、地域の行事への参加も行っている。防災面でも、地域の自主防災会とホットラインでの連絡体制ができており、また、ホームの防災訓練への参加協力も得ている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者と職員が話し合い、利用者を主体とした分かりやすい言葉で具体的な理念を作り上げた。入居前の習慣の継続やその人らしさを大切にして暮らし続けることを支援するという理念となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者を主体に「生きがいと安らぎのある暮らし」を支援することを理念として掲げている。今までの暮らしを可能な限り継続させることを大切に、その人にとっての生きがいを見出していくことに努めている。ミーティングでは、個別ケアを意識した話し合いがなされている。		
2 - 2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	法人全体の広報誌が年3回地域に全戸配布され、地域住民や関係機関に向けて情報を発信している。現在は、グループホームのパンフレットを新たに作成し配布できるように準備をしている。		グループホームのパンフレットは、より分かりやすい内容のものを作成中である。パンフレット等の配布先を検討し、多数の人から手に取ってもらい情報発信の場を広げていく取り組みを期待したい。
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の認知症に対する理解が深まっており、防災を始めとする地域活動を通じて地域住民からの協力を得ている。散歩に出ると自然に挨拶や声を掛け合う関係であり、ホーム行事への地域住民の参加や地元の小学生の訪問も行われている。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員ごとに項目の分担を決めて自己評価表の記入を行った。管理者はそれをホーム全体の自己評価としてまとめ、職員間で共通の理解を深めた。評価を踏まえて権利擁護事業の学習会を開催するなど、職員で具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、そのうち年1回は、利用者と昼食を共にしながら現状を理解してもらう機会を設けている。会議ではホームの活動報告等を踏まえて活発な意見交換が行われている。特に防災や催し物については積極的な意見・提案があり、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の記録や防災訓練の実施の記録などを見てもらうなどしながら、ホームの現状に対する市担当者の理解を得られるよう努めており、日頃から運営上の疑問点等を質問したり相談できる関係が作られている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム職員が法人の虐待防止委員会に委員として参加しており、委員会の会議や研修会の内容をミーティングで報告し、全員で学ぶ機会を作るように取り組んでいる。		高齢者虐待関連法について、基本的な理解を深めると共に、職員間でお互いに見過ごされることがないように学ぶ機会を作るよう期待したい。
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、グループホーム便りとしてホーム全体の活動内容を伝えるとともに、利用者個々の担当職員が、利用者一人ひとりの生活の様子や健康状態を書面で報告している。必要なときは、随時電話を家族に入れて状況を報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族の面会の時間を大切にしており、暮らしぶりや心身の状態の報告をしながら意見、要望を引き出そうと努めている。また、小さなことでも職員間で情報を共有できるよう連絡帳をつくり、家族との会話の内容を記載している。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回は職員全体でミーティングを行っており、利用者の状況や対応、業務についてなど積極的な意見交換が行われている。また、管理者は、日々職員の意見、提案を引き出せるよう、話しやすい雰囲気を作っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	複数の事業所を運営する法人であるため定期的に異動は行われるが、異動が生じた場合は、利用者へのダメージを最小限にするため、異動者は各担当について1ヶ月間同様に勤務し、馴染みの関係を築けるよう配慮している。またグループホームだよりも職員の異動をのせ、家族への周知を図っている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	法人全体の各委員会活動において各種マニュアルが作成されており、感染症や事故防止、緊急時マニュアル等が整備されている。平成21年度は業務マニュアルを整備することにより、新人研修や業務の振り返りに活用できた。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が年1回は勤務年数に応じて外部研修に出られるように配慮している。また、法人が主催する研修会があり、出来るだけ職員が参加できるように配慮している。研修参加後は復命書の作成を行い、ミーティング時には研修内容の報告をして全員で学ぶ機会を作るように取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に加入し、研修会参加等で交流を行っている。また、市内近隣地域のグループホーム間では、必要時に情報交換を行っている。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は、常に職員の意見を聞くようにし、話し合いの出来る環境づくりに心をくわいている。法人でも、グループホーム担当の事務長がおり管理者の話の聞いたり助言を行っている。また、法人全体で親睦会があり職員同士で交流がなされている。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者からの相談があると見学を受け入れている。本人の状況を見ながら、他利用者と気楽にお茶飲みを行ったり、家族等と相談しながら、ホームの雰囲気に馴染んでもらうよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から昔の慣習などを聞いたり、料理のコツや下ごしらえを教わるなど、利用者の持っている力を発揮してもらいながら共に暮らす関係づくりをしている。利用者が明るい表情で職員とのやり取りを楽しんでいる様子が見えがえた。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、面会時には家族に声をかけ話を聞くように努めている。家族から今までの暮らしぶりや生活の習慣などを聞きながら、利用者との人らしさを見出そうとしている。「母の日」「日帰り温泉旅行」などの行事も企画して参加してもらい、一緒に支えていく信頼関係を築いている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話や仕草から、本人の思いを引き出そうとしている。家族の面会時にも、本人がどんな思いを持っていたか、どんな話をしていたかなどの情報を聞いている。職員は、本人の目線に立って意見を出し合いながら支援方法を検討している。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には可能な限り管理者と計画作成担当者で本人を訪問し、その時に情報を得たり、他の関係機関とも相談・連携して、これまでの暮らし方や生活状況の把握に努めている。入居後も、センター方式のアセスメントを活用し、家族からも話を聞きながら情報収集している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日ごろから本人と家族の希望を確認するとともに、センター方式のアセスメント様式に細部まで記入して情報を把握し、利用者の意向を大切にしながら介護計画を作成している。支援内容は、利用者を主体とした具体的な表現で記載している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、1ヶ月ごとのモニタリングと3ヶ月ごとの再アセスメントの情報をもとに、6ヶ月ごとに見直しを行っている。その他、本人の状態が変化したときは随時見直しをしている。		
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物や地域の催し物参加など、利用者の要望には出来るだけ応じるようにしている。花見や食事会など、家族との交流の機会をも設けている。また、原則として定期受診の付添は家族が行っているが、家族の状況により困難な場合はホームの職員が対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医療機関を受診している。かかりつけ医への受診は原則として家族に行ってもらっている。その際は、本人のホームでの様子を記載した用紙を家族に渡して医師への情報提供をしている。必要時は、医師から往診してもらっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、家族に緊急時の対応や重度化した場合の対応等について確認している。本人が状態変化した場合や、終末期が予測される場合などは、家族、医師、ホームとで話し合い、意向の確認や方針の共有が行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の情報は、利用者や来訪者の目に付くところでは保管しておらず、不用意な取り扱いにはされていない。職員は、利用者の誇りや尊厳に配慮しながら、家族へ話しかけるようにさりげなく穏やかに声をかけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、行動をせかすことなく本人のペースを尊重した関わり方を考えている。普段の話しかけを通じて、どんなことをしたいか要望を把握しようとしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの持つ能力を活かしながら、利用者が調理や片付けを行えるよう支援している。利用者と職員と一緒に同じ食事を食べ、メニューや食事づくりのことなどを話題にしながら食事を楽しんでいる。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	基本的にはトイレで排泄できることを目指して支援している。24時間を通じて排泄状況を記録してパターンや習慣を把握し、気持ちよく排泄できるよう支援している。利用者個々の居室にトイレが設置されており、プライバシーが保護されている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室には利用者の動線に沿って手すりが設置され、安心して入浴できる設備となっている。原則としては、入浴の時間帯を午後を設定しているが、利用者の希望に合わせている。今までの習慣を大切にして、毎日入る人、入浴が嫌いな人等その人に合わせて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の出来ることや特技、趣味を活かして生活できるように支援している。普段から利用者のやりたいことや好きなことを引き出すように努めており、畑での野菜作り、墨画、編み物、手芸等をできるようにしている。利用者が作った鍋敷きや座布団を生活の中で使用し、張り合いにつなげている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は外の空気に触れることを大切にしたいと考えており、気候のよいときは、本人の希望や体調を配慮しながら出来るだけ散歩や買い物に出かけられるように支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に身体拘束廃止の委員会が設置されホーム職員が参加しており、ミーティング等で他の職員に内容を伝達している。職員は常に利用者の様子を目を配り、身体拘束のないケアを実践している。		今後は、身体拘束の対象となる具体的な行為を正しく理解するための学習会、マニュアルの確認など、職員間で周知し認識を深められるようさらなる取り組みを期待したい。
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけておらず、自由に出入りできる。玄関にはセンサーが設置され人が出入りするとチャイムがなる仕組みだが、穏やかな音で特に気になるものではない。外へ出かける利用者には職員が同行し、危険なよう見守っている。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハットレポートや事故報告があった場合は、緊急に話し合い改善方法を検討している。報告書が記載され、職員間で原因や対応策を共有している。転倒や誤嚥などのリスクが高い利用者についてはミーティング時に職員間で情報交換し、事故防止に取り組んでいる。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	法人として、心肺蘇生法やAED、応急手当の方法などに関する職員研修が行われている。緊急時における連絡の手順や方法もマニュアルとして周知されている。		今後はさらに、グループホームで実際に起こりうる事態を想定したより具体的なマニュアルの作成と、それに基づいた訓練を積み重ねていくことを期待したい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	法人として災害時マニュアルが整備され、年2回は避難訓練を行っている。町内会長が自主防災会の会長でもあり、自主防災会とホットラインでの連絡体制やホームの防災訓練への参加など、協力を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が立てた献立をもとに、栄養バランスの取れた食事を提供しており、時には、利用者からの要望や収穫した野菜などにより食事内容を柔軟に変更している。利用者一人ひとりの食事・水分摂取量を把握し、利用者の状態に合わせた支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	柔らかい色調と木のぬくもりが感じられる内装であり、落ち着いた空間である。廊下は明るく、広く開放感もあり、また、リビングには利用者の手作り作品が飾られ親しみやすい雰囲気がある。写真や広報紙等も掲示され、利用者、家族、職員の話題となり会話が弾むこともある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの調度品を置いたり、利用者自身が作成した飾り物を置くなどして、本人が落ち着いて生活できる空間づくりをしている。面会に来た家族がくつろげるよう椅子も用意しており、長く滞在していく家族もいる。		